

平成23年度 学校評価

様式1-1

大牟田市立勝立中学校 No. 1

学校教育目標		心豊かで健やかな身体を持ち、自ら学び、自ら考え、真剣に生きる生徒の育成		重点目標	入学時より学力をつけて卒業させる(学ぶ意欲の高揚、基本的な生活習慣の育成)				
評価計画				自己評価		学校関係者評価			
重点目標	目標達成のための具体的方策	評価指標(成果指標または取組指標)	評価	結果(成果と課題)	評価	コメント	改善計画		
学ぶ意欲の向上	教育課程の編成・実施・評価	教科の重点と達成の手立ての明確化	教科経営案で、確かな学力に関しての目指す生徒像やそれに対応する手だてが明確になっている	3.2	3.0	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間は十分に確保されているが、学力向上に繋がっていない。授業の質を高めていくことが必要。</li> <li>・教科によっては授業時間が増加し、細やかな指導が届かないものがある</li> <li>・3年生の数学の少人数学習は効果的であった。</li> <li>・観点別評価の工夫があまりなされていない。</li> <li>・英語の少人数の授業は計画通りに実施。単純分割で通したので習熟度別がよかつたかもしれない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方の努力に生徒達が応えていないようだ。生徒に目標をはっきりと持たせる手だてをとったらどうか。</li> <li>・学習等に遅れている生徒に対しての先生方の指導の努力に感心と経緯を感じます。</li> <li>・先生達の指導は、授業等も良くなされている。</li> <li>・共通課題と自由課題(宿題)の学年化や個別化が課題ではないでしょうか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領への対応、特に教科の観点別評価の確実な実施を行う。</li> <li>・教科間の授業の持ちや、校務分掌などで考慮する。</li> <li>・研修委員会で、更に意欲向上のための実践項目を絞り込む。</li> <li>・実践交流会では今後も全員のレポートを提出していく。</li> <li>・代表授業、授業研の流れができてきているので、来年度も続ける。</li> <li>・長所を見つけ、やる気を起こさせる手だてをとってはどうか。</li> <li>・女子の体力の状況はよいが、男子の体力の低い原因は何だろうか。</li> </ul>
		意欲化のための指導の共通実践8項目の取組	「知的好奇心に訴える課題の提示」「生徒個々の反応の効果的活用」「KR情報の効果的活用」「時間的保障」など意欲化のための実践項目に取組む	3.2					
		工夫されたわかりやすい授業の実施	工夫ある授業を行い、教科の目指す生徒像を達成する	3.1					
		指導体制や組織の工夫	少人数、課題別など、柔軟な学習集団を編成し授業する	3.3					
		指導と評価の一体化を図る	場や時に応じた適切な評価の工夫を行い評価結果を指導に生かしている	3.4					
	指導力の向上	校内授業研究会の充実	主題に基づいた全体授業研究会を年2回、年間を通した全員公開授業期間を設定し、全員が授業公開をする	2.8					
		職員研修の奨励	専門研修や先進校授業公開等、個人の要望に合致した研修会に参加するとともに、必要に応じて復命の機会を設け、校内研で成果の共有を図る	2.8					
	学習基盤づくり	学習体制の整備	家庭学習(宿題プリントの工夫など)を含めた学習体制の整備と確立を図る	3.1					
	進路指導の充実	ガイダンス機能を重視した進路指導の展開	キャリア教育を推進し、適切な職業観・勤労観の育成を図る	2.9					
	学力等の実態	学力実態調査等の細かな分析、課題解決方策の実施	前年度の市平均値差を向上させる 保護者の授業への満足度を向上させる	2					
重点目標に関する評価	容儀・規範意識の育成	防犯や非行防止学習の推進	「非行、万引き防止」「いじめ防止」「薬物乱用防止」「不審者対応」等の授業体験活動、道徳、学級活動の関連授業として実施する	3.2	2.9	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外での生徒の様子を見ると学校の指導は良く行われている。</li> <li>・地域からの声(善悪共)を活かした生徒指導</li> <li>・道徳の授業研究を取組、授業の質的向上を図る。</li> <li>・学校生活の中で場に即応した生徒の心に迫る道徳指導の実践</li> <li>・行事と日常生活との関連を常に意識させる指導</li> <li>・生徒会執行部を中心に</li> <li>・教師と生徒とのふれあう時間の確保</li> <li>・地域行事への参加を勧める。</li> <li>・スクールカウンセラーの生徒・保護者啓発等積極的な活用</li> <li>・授業以外の、生徒間交流を考慮する研究授業は、小学校の教務と連携して呼びかける。</li> </ul>		
		挨拶、聴く態度、時間厳守の徹底	年間を通した生徒による朝の「挨拶運動」を展開する 集会等開始時間の徹底	3.1					
	思いやりや支え合う心の育成	道徳の重点価値項目の関連を回り、人権・同和・福祉教育との有機的な推進を図る	「思いやりや支え合う心」「差別をしない心」について重点配分した道徳の授業を実施するとともに「老人疑似体験」「要介助体験」等人権・同和・福祉教育を絡めた体験型の心の開拓に努め社会性、人間力、自尊感情を育てる	2.9					
		縦割り集団での人間関係づくり	学年単位を超えた「縦割り集団」で取組む機会を通した人間関係づくり推進	3					
	ピアサポートの活動を多く実施	学校行事や各学年行事等の活動を通して、支持的風土を醸成する	3						
	教師保護者の率先垂範	教師保護者と生徒との日常活動の充実	「朝の挨拶運動」や「地域ボランティア清掃活動」等での協同作業を実践する	3					
	教育相談の充実	スクールカウンセラーの活用 定期的教育相談の設定	悩みの解消に向けた教育相談の充実と不登校生徒発生率の減少を図る	3.2					
	小中連携や地域との連携	小中学校や地域との交流推進	小中学校間での授業交流や地域行事への生徒参加を図る	2.8					
	自己肯定感の向上	自己表現の場の設定	生徒の自己評価におけるポイントを向上させる	2					

自己評価 4: 目標達成(90%以上) 3: ほぼ達成(70~89%) 2: もう少し(60~69%) 1: できていない(60%未満、)  
 学校関係者評価 A: 自己評価は適切である B: 自己評価はほぼ適切である C: 自己評価はあまり適切でない D: 自己評価は不適切である